

「オープン API のあり方に関する検討会」(第 9 回) 議事要旨

1. 日 時：平成 29 年 2 月 27 日 (月) 16 時 00 分 ~ 17 時 00 分
2. 議 題：検討会報告書 (中間的な整理 (案)) について
3. 議事内容：

※ これまでの討議およびその後のメンバーからのコメントを踏まえた「オープン API のあり方に関する検討会報告書」の中間的な整理 (案) は、添付ファイルをご参照。

- 検討会において銀行業界、FinTech 業界、IT ベンダー、学者等も入って、幅広い関係者が議論したことの価値は、「リスクに目配りしつつ、一方で、イノベーションを阻害することなく、また新たな参入を阻害するような過度な負担にもならないような、適切なバランスを追求したこと」だと思う。これだけ様々な業界の方々が集まった成果でもあるので、これを公表していくときに、「こういった観点からこの報告書を作り上げていった」というようなことを、是非、公表してはどうか。そうでないと、どちらかの立場に偏っているのではないかとの見方をする方もいるかもしれない。少なくとも検討の視点としては、こういった観点から検討した成果であるということを、報告書を公表する際に言ってよいと思うし、今後参加された方々が報告書についてお話しするときに、しっかりと理解していただく、今後も、そういった観点でアップデートしていくということが大事なのではないか。
- FinTech 業界全体という立場から見ても、今回の検討会は非常に有意義なものであったと感じている。銀行業界、IT 業界、事務局、各学者、消費者団体の方々から活発な意見をいただき、ありがたいと思っている。今回の報告書の最後の「API エコシステムの形成に向けて」というところに集約されているが、金融機関、FinTech 企業だけでなく、あらゆる業種が、この API を活用していくことは非常に価値があることだと考えている。この段階でここまで各業態が一緒になって、このようなガイドラインを作り上げることができたというのは、世界の中でも一番進んでいる状態に来たのではないかと考えている。今回の報告書は非常によいものができたと考えており、次は、実ビジネス、サービスとしてよりよいものを共に作っていきたい。
- 銀行が FinTech 企業と連携して新しいサービスに踏み出すことに、ユーザーの関心は高い。新しく色々なサービスが出てくる中で、よいサービスは銀行において選んでいただいてサービスとして並べていただきたい。優れた技術の企業が採用されることによって、私たちの生活がより便利になるサービスが出てくることを期待する。

- API に金融取引特有の弱点が存在した場合に、それをきちんと発見し、対策を講じること、さらに、それを皆で共有していくということは、これから非常に大事になってくる。そういう観点から是非、金融 ISAC には活動をしていただきたい。本報告書の整理にもあるとおり、そういった事例が出てくれば適切に情報を共有し、必要であれば見直し等を行うということは適切だと考えている。
- この報告書はおそらく完璧なものではなく、今は誰も予想がつかないイノベーションが今後も進んでいく、それに応じて見直しが随時必要になってくるものだと思っている。また、個別行としての実際のオープン API への取組みも、まさにこれから本格化していく分野であり、報告書は、オープン・イノベーションの活性化に向けた、その一里塚に過ぎないと考えている。オープン API を通じて実現される協業・連携型のイノベーションは、日本の文化・風土との親和性も高く、わが国が世界をリードしていける分野である。是非、個別行・個社レベル、業界レベル、さらにはオール・ジャパンのあらゆるレベルで、今後も、連携・協働の火をさらに盛り上げていきたい。

以 上